

災害派遣福祉チーム (DWAT)

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会からの要請を受け、当施設の鈴木啓悟介護員が災害派遣福祉チーム (DWAT) の一員として、令和六年十一月二十五日から二十九日まで、石川県輪島市の特別養護老人ホーム「あての木園」で活動してきました。ここに鈴木介護員からの報告を掲載させて頂きます。

輪島市にある特別養護老人ホーム「あての木園」にDWATとして派遣され、施設での介護業務を行ってきました。能登半島地震から一年経つ状況ですが、施設までの道中は、道路や斜面が崩れていたり、車がそのまま放置されていたりと復興が大きく進んでいる印象は感じられませんでした。

施設にはここ一、二ヶ月でようやく業者が入るようになり、設備が復旧してきたとのことでしたが、壁紙が剥がれていたり、配管がむき出しのままになっていたり、震災直後のまま残っているところもありました。震災後に全利用者を避難させ、七月より徐々に再開したそうですが、施設に戻って来たい利用者様に対し職員の数不足、通常の運営ができず厳しい状況とのこと。物品等の不足はないようでしたが、汚物処理装置が故障し、利用者様、職員はラップポン（排泄物を一回ごとに個包装して密封するポータブルトイレ）を使用して排泄を行っていました。私も実際に使用してみました。普段使う機会がないため初めは抵抗感があり、精神的な負担を大きく感じました。

実際に介護業務に当たり感じたことは、利用者様と会話をする際に方言や独特の言い回しがわからず、コミュニケーションを図るのに苦労しました。また、排泄介助、移乗介助については施設でのやり方で行う必要があり、慣れないリフターを使用したり、普段の業務で使用していない排泄用具を使用したりなど難しさを感じました。

今回は災害発生から時間が経ってからの派遣ではありましたが、隣県で災害が起きた際には早期の派遣になると思うので、今回感じたことや学んだことを生かせるよう、知識や技術の習得、向上に取り組んでいきたいと思っています。

職員が安全に活動できるよう、大変な状況の中ご配慮下さった「あての木園」の皆様には心より感謝申し上げますと共に、一日でも早い復旧・復興を祈念いたしております。

あわせまして、活動に関わる様々なご調整を頂きました福島県老人福祉施設協議会の皆様にも感謝申し上げます。



DWAT出発時の鈴木介護員（左）、お隣はリーダーの特別養護老人ホーム「光の森の丘」介護職員の三澤幸司さん

自然災害訓練

自然災害発生時のBCP（事業継続計画）に基づくシミュレーション、及び社会福祉施設避難確保計画に基づく訓練を十月三十一日に実施しました。

今回は、平日日中に河川の増水で建物内に浸水することを想定。利用者様十六名に協力を頂き、平屋建ての当施設から、隣接する三階建ての養護老人ホーム「鮮雲荘」に実際に避難誘導を行いました。

利用者様については、非常口から徒歩で避難する方、車いすのまま福祉車両に乗って避難する方の二手に分かれ誘導を行いました。同時に、非常持ち出し品（経管栄養の方の濃厚流動食を含む食糧や飲料水、医薬品、紙オムツなどの日用品、家族連絡先等の情報が記載されたカルテなど多数）の運搬、職員の緊急連絡網による召集伝達訓練も実施。午後二時三十三分に開始した訓練は午後三時十二分に全員の点呼が終了しましたが、職員は疲労困憊の状態でした。全体の五分の一の利用者様を避難誘導するのにも相当の労力が必要であることがわかり、水害については適切に情報収集を行い、できるだけ日中のうちに避難することが肝要だとひしひしと感じました。また、非常持ち出し品も定期的に確認し、持ち出しやすい場所に保管するなどの工夫が必要だと思いました。

災害はいつ起こるかかわからないため、今後も定期的に訓練を重ねながら、各計画をブラッシュアップしていきます。



不在者投票

令和六年十月二十七日に執行された衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査の不在者投票を同月二十五日に当施設で行いました。事前に希望の申し出のあった十三名の利用者様が貴重な一票を投じました。

